

結成20周年
新たな大躍進
に向け出発!

月刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番
99・9・15 No.018

国鉄闘争勝利、戦争と大失業に抗する労働運動を 第27回定期大会に結集しよう

動労千葉第二七回定期大会が十月三日午前十時から、千葉市・労働者福祉センター大ホールにて開催されます。本定期大会は結成二十周年の節目を飾る大会であり、また正念場を迎えた国鉄闘争勝利にむけた総決起の場として、さらに新しい世代の動労千葉の建設をかちとるために重要な大会であります。

国鉄闘争の勝利をかちとろう

今定期大会の課題の第一は、正念場を迎えた国鉄闘争勝利の路線を確立することです。国鉄闘争は昨年の五・二八東京地裁反動判決以降、国労中央が改革法承認・闘争団切り捨て策動に突き進むなかで、一〇四七名の解雇撤回・原職復帰をかけた正念場をむかえています。国家的不当労働行為を弾劾し解雇撤回闘争を闘うことは、大失業攻撃のなかで労働運動・労働組合の今日的な基本課題であります。しかも分割・民営化以降十二年余、全国の多くの労働者をはじめとした人々に支援され続けてきたこの闘いを投げ出すことは許されるものではありません。

一〇四七名の解雇撤回・原職

線をうちかため、総決起をかちとらなければなりません。

同時に表裏一体の課題として分割・民営化体制、JR結託体制を打倒しなければなりません。JR結託体制はいまや破綻の淵にたたされています。JR総連・革マルの危機は極限まで達し、安全問題ではまともに列車を運行する能力すら喪失しています。また貨物・三島会社の経営破綻は、もはや分割・民営化が成功したとは言えない状況がむかえています。そして職場では依然として組合差別と合理化攻撃がふきあれています。いまこそ分割・民営化体制、JR結託体制打倒に立ち上がらなければなりません。

戦争・大失業と対決する運動を

今定期大会の課題の第二は、五月二四日の新ガイドライン関連法可決をはじめ盗聴法など組対法三法、国旗国歌法など反動・弾圧立法の強行により、日本が戦争をしない国から戦争を行なう国へと大方向転換するなかで、この状況に対する労働運動としての認識の深化と闘う路線を確立することです。

これからの労働現場には具体的

第二七回定期大会

とき 一九九九年十月三日午前十時から
ところ 千葉市・労働者福祉センター大ホール

同時に大失業攻撃の一層の激化が不可避な情勢をむかえています。今臨時国会で成立した「産業再生法」は、リストラ・首切りを行なう企業にさまざまな優遇措置を与えるという国家公認のリストラ政策です。まさに好不況に関係なくリストラを率先して行なう企業が競争に勝つという構造がここに現出したのです。再生法により戦後の雇用形態が一変するような状況が生みだされようとしています。

こうした戦争と大失業の攻撃と対決する労働運動・労働組合の新しい潮流の出現がいまほど求められているときはありません。本大会をとおして新しい潮流運動の強化をかちとらなければなりません。

新しい世代の動労千葉を創ろう

本定期大会の課題の第三は、大失業と戦争の時代の到来のなかで、こうした時代と対決する

動労千葉を建設することです。今年の三月三十日で動労千葉は結成二十周年を迎えました。この二十年余は、三里塚ジェツト闘争、動労本部からの分離独立、分割・民営化反対の二波のスト、解雇撤回・清算事業団闘争、反合・運転保安闘争など全組合員の団結を基礎にした闘いの連続でした。しかし大失業と戦争の時代の到来は、労働者の存在そのものがかかった激しい闘いになろうとしています。こうした時代を闘いぬく体制をつくりあげなければなりません。今定期大会での討論をとおして闘う路線と方針を確立しなければなりません。さらに正念場をむかえた国鉄闘争や大失業と戦争の時代の労働運動の問題など重要な課題が山積しています。全組合員の討論のなかから、新しい世代の動労千葉をつくりあげよう。全力で第二七回定期大会に結集しよう。